

連載：原点

成長

白井高等学校 松田 虎太郎

今年、大学を卒業し教員として働き始めてから、約5か月が経過しました。私は現在、白井高等学校で3学年の副担任として勤務しています。毎日初めて経験することばかりで戸惑うことが多いですが、先生方、生徒達に支えられて、2学期を迎えることができました。この学校で勤務を始めて感じたのは、数学に苦手意識を持つ生徒が多いという現実です。特に、2学期が始まり、問題の難度が高くなると、なかなか手が進まない生徒や、1学期に学習した内容を忘れてしまっている生徒が多くいました。そのような生徒に対して、どのように指導・支援をしていくか、毎日模索しています。

これまで授業を行ってきた中で、私自身が大きな課題だと感じていることは、「予想外の反応」への対応です。特に授業準備の段階で、生徒が躓きやすい問題や、発問に対する反応を予測して、生徒の率直な答えを活かして展開することが重要だと考えています。この課題を解決するために、私は以下の2点に特に留意して準備をしています。

1つ目は、私自身が50分の授業で、生徒に成長してほしいことを明確にして指導することです。授業で難しいと感じることは生徒によって異なります。授業内で全員の疑問を把握して、解決することは、今の私にはできません。この授業では、「概念を理解する」「問題を解けるようになる」など目標を意識させることで生徒の疑問が集約され、授業内で解決できることを増やせるのではないかと考えています。

2つ目は、これまでの授業で生徒が発言したことを記録し、それをもとに予想される反応を考えることです。準備をするときに多くの時間を費やしても、思いつかない答えを返してくれるときがあります。発言を記録しておくことで、次回以降の授業準備に活かせるだけでなく、自分の視点だけでは気づくことができなかった課題を把握し、より生徒に寄り添った授業を展開できると考えています。

私は数学を通じて、生徒の「論理的に考える力」を育てていきたいと考えています。問題を解くときには、「何を求めればよいのか」や「求めるために必要な知識は何か」など、順序立てて整理することが大切です。生徒が論理的に考える力を進路決定や学校行事など日常生活にも活かせるように指導していきたいと考えています。まだ私の授業展開や指導方法には課題が多く残っていますが、生徒が成長するためにはどうすればよいかを常に考え、学び続けていきます。